

シリーズ第4回 今年度を振り返る 卒業式、進路等

町民に知ってもらおう！繋がろう！

わが町 高校PR

※静内高等学校、静内農業高等学校の近況報告などを
年々掲載します。



第69回卒業式挙行

3月1日(水)、高野卓也教
育長、日高管内の中学校校
長、教頭先生、そしてたく
さんの保護者の方々をお迎
えし、第69回卒業証書授与
式を挙行了いたしました。

厳粛な雰囲気の中で、
ホームルーム担任の先生か
ら一人ひとりの名前が呼ば
れた後、各クラスの代表が
登壇し、西堀隆亮校長先生
から卒業証書が授与されま
した。式辞の中で校長先生
は「大学受験や就職試験の
勝者が人生の勝者にな
るとは限らない。一時の
状況だけで一喜一憂するの
ではなく、長い目を持ち、
一つひとつの物事を確実に
こなし、その結果がその人



第69回卒業証書授与式

教職員校内研修の充実

本校では授業改善や指導

の運命につながる」とはな
むけの言葉を贈りました。
その後、生徒会長の及川太
士くんの送辞に続き、前生
徒会長の福田優作くんが
答辞で応え「皆さんに出会
えたことで、素晴らしい日
々とたくさん思い出を作
ることができた。いつで
も支え合い、励まし合い、
笑い合ったことは一生の思
い出」と感謝の言葉を述べ
ました。多くの方々に見守
られながら巣立った169
名の卒業生。これからも新
たな進路先で自らを磨き続
け、地域・社会に貢献する
と同時に、充実した人生を
送ってほしいと願っていま
す。

の成長に力を注いでまいり
ますので、今後ともよろし
くお願いいたします。

進路状況

本校は、多様な進路二
ズに配慮するために、特進ク
ラスを設置して8年、単位
制に移行して6年が過ぎま
した。この間、就職・進学
にかかわらず、生徒の進路
実現という継続的な成果が
徐々に地域に浸透し、現在
では全道規模で静内高校の
名前が認知されています。

さて、今年度の進路状況
ですが、進学においては3
月8日時点(前期日程合格
発表)で大学合格者数は延
べ86人で、そのうち国公立
大学実合格者数は17名とな
りました。今年度は3年ぶ
りに普通クラスから国公立
大学への合格者が誕生し、
学校全体として学力向上に
取り組んできた成果が形と
なりました。また、就職に
ついては今年も管外の優良
企業の新規開拓を進めなが



卒業式が挙行

3月1日(水)、第39回卒業
証書授与式が挙行されまし
た。食品科学科30名(男子
16名・女子14名)、生産科
学科27名(男子23名・女子



第39回卒業証書授与式

進路状況

(進路決定率100%)

今年度も無事に3年生全
員の進路が決定し、進学が
15名、就職が42名という結
果になりました。地域・各
関係の皆様には、インタ
ンシップやデュアル派遣実
習等、進路活動を含めさま

学科の取組

◆食品科学科
食品の安全・安心・信頼
を提唱したフードシステム
に関する基礎的な知識・技
術・態度を習得させ、科学
的・総合的な判断力など社
会に求められる力を育てる
ことを特色とした学科で
す。フードシステムによる
体系学習を通して、原料の
生産から加工・製品検査・
販売を学び、「食(職)」に
責任を持てる人材を育成し
ています。食を教材とし、
地域の特産物を利用した商
品開発、高品質な生乳生産
への取組やその生乳を生か
した新商品開発、作物の新
たな栽培方法の研究など、

さまざまな場面でご協力をいた
だき、誠にありがとうございます。
卒業生の新たな環
境での活躍を期待すると
ともに、今後ともご協力をど
うぞよろしくお願いいたし
ます。

◆食品科学科

多様な教育を展開していま
す。また、年5回行われる校
内での販売会のほか、食彩
フェア(アリオさっぽろ・
大丸東京駅店で開催)で
は、学校の農畜産物やそれ
らを利用して製造した加工
品を販売することで、多く
の方に教育活動の成果を披
露することができました。

◆生産科学科

今後、多くの方々から私
たちの活動を伝えられるよ
うに努力していきたいと考
えております。

二年次より、生徒の興
味・関心、目標進路に合わ
せ、馬科学コースと園芸
コースに分かれて学習しま
す。
馬コースでは、地域関係
者のご協力により、軽種馬
生産に対する専門的な学習
へのバックアップをいただ
いております。今年度、町
主催「馬力本願プロジェクト」事業に参加し、地域の
子どもたちと一緒に乗馬交

流活動等を行い、馬の魅力
を広く発信することができ
ました。

園芸コースでは、町の主
幹事業である「花いっぱい
運動」にかかわる花壇苗の
生産、二十間道路のコスモ
ス植栽や各種販売活動等、
生徒の活動を地域の方々に
直接または間接的に理解を
いただいているところで
す。

日高管内唯一の農業高校
として専門性を生かした産
業人の育成はもとより、人
間の生活に切り離すことの
できない農業を正しく理解
し、次世代につなげること
のできる人間の育成を目指
していきたいと考えており
ますのでどうぞよろしくお
願いいたします。

ご愛読いただき
ありがとうございます。
ございました。